
香物語

楊史

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

香物語

【コード】

N7316I

【作者名】

楊史

【あらすじ】

香りにまつわる物語。

香りにまつわる物語（前書き）

第一話 「家庭の香り」

香りにまつわる物語

掃除の行き届いた綺麗なキッチン。システムコンロの上では大きな寸胴鍋が弱火にかけられ、中のものがコトコトと煮込まれている。キッチンと一体型のダイニングで椅子に腰を降ろし、本を読んでいた長倉^{ながくら} 美智代^{みちよ}は、鼻をひくつかせ、部屋いっぱいに満ちたスパイシーで芳ばしい、エスニックな香りに思わず微笑んだ。

大成功。今日こそは^{ひろのぶ}広信も満足するはず。これで汚名返上よ。本を閉じ立ち上がると、右肩にかかる長い髪を後へ払い、キッチンへと向かう。

鍋の蓋を開け、中のものを覗き込んだ。

くつくつと、気泡が連続して弾けたように、カレーが静かに煮えている。

いつもと違い、今日のカレーは見た目と香りに奥深さがある。美智代は自らが作ったそれに、自然と喉を鳴らしてしまった。

これでもまだ気に入らないと夫の広信が言えば、カレーは二度と作らない。そんな気持ちにもなってくる。

今日のカレーはそれほどのでき栄え。

美智代はまだまだ主婦歴一〇年と少しだが、その一〇年余りの歴史が、すべてこのカレーに凝縮されている気がした。

美智代にとって、広信は優しい夫だった。

いつも自分を見ていてくれる。美智代の作った料理ならと、大満足して食べてくれる。なのに、なぜかカレーだけはすぐに自分の母親の味と比べ、その足元にも及ばないなどと言うのだ。

そのため、美智代もカレーを作るときは周りが見えなくなるほど念を注ぎ、毎回、今度こそはというつもりで作ってきた。が、未だ成果なし。

まだ、一度たりともカレーで広信が満足した顔を見ていない。

でも、今日のカレーなら

「大変！」

再び鍋の中を見下ろした美智代は、慌ててレールをかき回した。カレーの煮えかたが、だいぶ慌ただしくなっていたのだ。

鍋の底をレールで引つ掻いてみると、ゴツゴツとした感触がある。しかし焦げた匂いはしない。

セーフ。美智代は思わず息を吐いた。

ここで僅かでも焦がしてしまうと、すべてが水泡に帰すところだ。時計を見ると、もう間もなく広信が帰ってくる時間だった。カレーは相変わらず、食欲をそそるいい香りを放っている。

美智代は満足そうに笑う広信の顔を思い浮かべ、にんまりと笑った。

ただ、一つだけ忘れていた。

炊飯器のスイッチを、未だ入れていないことを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7316i/>

香物語

2010年10月15日14時07分発行